

令和元年度

第3回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録

(令和元年9月 第3回)

- 1 日 付 令和元年9月7日(土)
- 2 場 所 上今泉コミュニティセンター
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
教育委員 平井 照江 教育委員 酒井 道子
- 4 事務局 教育部長 伊藤 修 教育部次長 萩原 明美
- 参事兼教育総務課長 中込 紀美子 就学支援課長兼指導主事 小林 丈記
- 参事兼教育支援課長兼指導主事 和田 修二 教育支援担当課長兼教育支援センター所長兼指導主事兼支援係長事務取扱 浅井 大輔
- 学び支援課長兼若者支援室長事務取扱 外村 智昭
- 5 開会時刻 午前9時58分
- 6 協議事項
- (1) 教育大綱について
- (2) 教育委員会の重点的な取組について
- ①青色パトロール車による安全パトロールの強化
- ②インフルエンザ予防接種助成事業
- ③プログラミング教育の推進
- ④若者定住奨学金返還助成事業
- (3) 学校給食について
- 7 学校紹介 柏ヶ谷小学校
- 8 閉会時刻 午後12時10分

○**教育部長** おはようございます。定刻より若干前でございますけれども、ただいまより令和元年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。私は、本日司会を務めさせていただきます教育部長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。なお、進行につきましては、本日お配りしております次第により進めさせていただきます。初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。内野市長、よろしくお願いいたします。

○**市長** おはようございます。海老名市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。夏休み期間中、子どもたちの事故や事件がなくてよかったなとつくづく安心しています。これも地域の皆さま、あるいは関係各位の努力だと思っています。そういった中では、明日は台風が来ます。学校教育の関係では修学旅行に行く学校がありましたので、延期等、対応がいろいろとありました。子どもたちの安全安心を守っていくというのが責務でありますので、学校と教育委員会が協議しながらよろしくお願いいたしますと思います。この会議も、27年度からスタートして5年目を迎えております。変化をしながら、子どもたちの発表を聞こうとか、子どもたちの学校のいいところを聞こうとか、いろいろやっておりますけれども、何しろ子どもたちの環境がよくなっていくことが必要だと思っています。今日は教育大綱の説明の後に学校の取組、教育委員会の取組、あるいは今話題になっております修学旅行と学校給食のあり方に関わるアンケートの中間報告がございます。中学校給食は今、注文弁当方式で行っております。家庭からの弁当をお持ちにならない生徒は注文弁当という形で給食を行っております。今後、中学校給食を前向きに考えていこうということで進めておりまして、この海老名市給食検討委員会も給食を行う方向で考えています。しかしながら、手法は様々です。現在、海老名市は児童数が増えております。設備投資をしても、将来的にその設備が要らなくなる可能性もあります。給食を行う方向の中で、一斉に全ての中学校での実施とはいきませんが、どのような形がよいのか、段階的に考えていくこととなります。先日、小学校で給食への異物混入がありました。これについては、今後このようなことがないように万全を期したいと思います。中学校給食のあり方もどのような形がよいのか、議論も必要になってくると思っています。どうか皆様方のご協力を得て、有意義な教育会議とさせていただきたいと思っています。今日は傍聴の方もお見えになっておりますので、後ほど時間がありましたらご意見等を賜りたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

○**教育部長** ありがとうございます。続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○**教育長** おはようございます。第3回総合教育会議にお集まりいただきどうもありが

とうございます。私は教育を担当する責任者ということで、さまざまなことを考えます。子どもたちだけではなくて、生涯学習の大人の方々の学びというのも我々の担当です。けれども、やはり中心になるのは子どもたちです。未来を担う子どもたちを今どんな力をつけて、どのような環境の中で育てたらよいかということに本当に悩みます。そういう中であれこれ悩みますけれども、自分で立ち返るのはスチューデントファースト、子ども一番で物事を考える。施策上で迷ったときには、いつも立ち返るのは子どもを一番に物事を考えようよということです。例えば学習指導などでも、将来、子どものためになるかならないかといったら、子どものために学校の授業は変えたほうがよいでしょうと、そういう論理で全てを考えます。そういう中で、先ほど台風の話がありました。海老名中学校吹奏楽部が明日、日曜日に関東大会で水戸に行きます。校長先生に電話をしたら、校長先生は、「夜は10時半から11時ぐらいにバスで帰ってくるようになります。その後楽器をおろしたりすると、12時近くになるかもしれない」とお話しされていました。私は校長先生に、「子どもたちはちょうど台風が厳しい時間かもしれないから安全に帰れるようにしてほしい。保護者の協力を得られないだろうか」と校長先生とやりとりをしました。その後、市の台風情報連絡会へ行ったときに、そのことを市長にお話ししましたら、市長は、「もう1泊させたらいいじゃない」と言ったのです。まさにスチューデントファーストなのです。生徒の安全が第一なのです。こういう観点で物事が考えられる。この後、給食の話もあります。保護者のほとんどの方は中学校完全給食を望みます。その理由も私は十分わかります。でも、子どもたちは弁当を望んでいます。子どもたちが望む弁当のスチューデントファーストはどこにあるのだろう、そういう意味の議論も必要だと思っています。我々がここで話し合うことは、立ち返るのは最後、子どもが一番、子ども優先に物事が考えられることです。でも、様々な方々のご意見があることが大事だと思っています。前回の総合教育会議では、門沢橋小学校の子たちが発表してくれました。そこで一番うれしかったのは門沢橋小学校のごみの分別です。子どもたちが自分たちの、こどもまつりで全てのごみを分別して、ごみの削減のために子どもたちが自分たちで動いて発表してくれました。今日の発表は柏ヶ谷小学校です。柏ヶ谷小学校のよさを発表してくれると思いますので、それを楽しみにしているところでございます。それでは総合教育会議、よろしく願いいたします。

○教育部長 ありがとうございます。では、協議に入る前に総合教育会議について簡単に説明をさせていただきます。総合教育会議は、市長と教育委員会が連携し、教育大綱や

教育の条件整備など重点的に講ずべき施策などについて協議調整をする場となっております。その結果、調整が図られれば、その結果を尊重することとなっております。なお、会議中に市長から保護者など傍聴者の皆様に意見を求める場合もございます。時間も限られておりますので、発言の際は簡潔にお願いいたします。また、本日の次第4につきましては、柏ケ谷小学校児童が学校紹介を行います。市長、教育長、教育委員と地域の皆様に児童の取組や学校生活について知っていただく機会と捉えておりますので、ご承知おきいただければと思います。それでは、次第3の協議事項に入りたいと思います。お手元の次第のとおり、協議事項は(1)から(3)の3件となっております。これより協議事項の進行につきましては、内野市長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○市長 それでは、協議事項の(1)「教育大綱について」。教育大綱策定の報告を事務局よりお願いいたします。

○教育部次長 それでは、本年策定いたしました新教育大綱についてご説明いたします。私たちは「ひびきあう教育」の理念のもと、子どもたち、そして家庭・学校・地域のしあわせを目指し、目標を「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名として策定をいたしました。この中で主な重点的な取組事項としては3点ございます。「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育」、「子どもと大人がともに成長する社会」、「家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり」、大きな取組はこの3点になってございます。この計画期間につきましては、本年4月から令和5年3月までの4年間となっております。その中で教育施策を3つ策定させていただきました。その中では場面等々において重点的な項目を補いながら進めてまいります。次のページのところから、それぞれの取組の推進内容についてご説明いたします。まず1つ目の柱になります。「『えびなっ子しあわせプラン』の推進」でございます。具体的な取組事例は、お手元の資料にお配りさせていただいております5点になります。本日、5点目の「学校ICTの環境整備と活用」につきましては、これからの教育の中のプログラミング教育の推進というところで改めてご説明させていただきます。続いて、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実でございます。こちらもお手元の資料にございますとおり5点を紹介させていただいております。続いて3点目になります。「新たな学校施設への取組と子育て環境の充実」でございます。こちらにつきましても、正面画面のほうで5点掲載させていただいております。本日は2点目の「健康・安全安心のための環境整備」という部分において、中学三年生を対象としたインフルエンザ予防接種費用助成事業、青色防犯パトロール車による巡回パトロールの強化等

について本日ご説明させていただきます。また3点目の「学校給食のあり方の検討」、4点目の「義務教育に係る公費負担のあり方の検討」につきましては、学校給食及び修学旅行のアンケート結果も本日晒らせていただき、ご報告させていただきたいと思います。これらを総合的にまとめた1枚の表がこちらの図のような形になっております。また、本日お示しさせていただく新しい教育大綱などの施策はほんの一部でございます。この大綱の実施に家庭・学校・地域、そして行政の力を結集して、子どもたちや家庭・学校・地域のしあわせを目指して、「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名を目指してまいります。簡単でございますが、説明を終わります。

○市長 この教育大綱については、4月に策定し、進んでおります。そういった中で、今回、教育委員会が重点的な取組を4点ほど挙げております。説明を受けた段階で意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。それでは、(2)「教育委員会の重点的な取組」をよろしくお願ひいたします。

○就学支援課長 おはようございます。就学支援課のほうからは、青色防犯パトロール車による取組と、中学3年生応援インフルエンザ予防接種助成事業について説明いたします。よろしくお願ひします。今、スライドに映っていますが、青色防犯パトロール車（以下青パト）、通称青パトという言い方をします。現在は2台、6名のスタッフでシフト制にて巡回をしております。児童の下校時間に合わせてパトロールをします。その目的は交通安全上、それから防犯上の安全確保です。学校稼業日は全て巡回をしているのですが、加えて夏休みのえびなっ子スクール期間も対応しているところでございます。巡回時間は午後1時から5時まで行っております。巡回ルートは、2台で市内を北部ルートと南部ルートに分けて巡回します。北部が東柏ヶ谷小学校、柏ヶ谷小学校、杉本小学校、上星小学校、今泉小学校、有鹿小学校のそれぞれの通学路、それから南部が海老名小学校、大谷小学校、中新田小学校、杉久保小学校、社家小学校、有馬小学校、門沢橋小学校のそれぞれの通学路、小学校と中学校を中心に巡回をしているところです。明日のように、台風の被害が予想されているようなときには、教育部職員が朝、通学路の安全点検をしています。皆さんの記憶にも新しいところだと思いますが、6月に愛川町で刃物を持った男の人が逃走していますという事件がありました。そういったときにも、教育部職員が朝、児童の登校時間に合わせて巡回を行いました。このような対応を含めて、10月から朝の通学時も青パトで安全確保のための巡回をします。さらに、12月からは青パトを1台増やしました。今後3台体制で巡回をする方向でいます。今後もしめ細やかに通学路の点検をし、児童の

安全確保に努めていきたいと思っています。続きまして、インフルエンザ予防接種費用助成事業についてご説明をします。この事業は、中学3年生の進路にかかわる大切な時期をインフルエンザに罹患することなく、受験等を迎えてほしいという目的で平成30年度より事業を始めました。対象は、市内在住の全中学3年生としています。インフルエンザ予防接種1回あたり自己負担を1,000円とし、残りの費用を教育委員会が補助をしております。平成30年度の実績は、お示ししたとおりですが、全体で接種率がおおむね6割ということで確認しています。今後さらに接種率を上げていきたいと思っておりますので、キャンペーンをしていきたいと考えております。今年も中学3年生応援インフルエンザ予防接種助成事業を継続します。以上でございます。

○教育支援課長 私からはプログラミング教育の推進についてご説明いたします。来年4月に学習指導要領が改訂されることに伴い、2020年度より小学校でプログラミング教育の全面実施となります。誤解のないように申し上げますと、小学校の時間割にプログラミングという教科が加わるのではなく、教科等の中でプログラミング的思考を組ませていくということでございます。プログラミング的思考というのは、見方を変えれば、コンピュータでどのように指示をすればよいか、どのように指示を改善すれば、より意図した発想に近づくか試行錯誤をしながら論理的に考える力のことで、それを育てていこうというものでございます。教科の中でプログラミングを体験する学習が今後、教科書の中に出てくるわけですね。例として5年生の算数の「円と多角形」という学習があります。海老名市では2018年度にプログラミング教育の先行事例として、実際に授業を行いました。これは子どもたちが、前にいくつ進んで、右に何度向きを変えていくつ進めるというような形でiPadに指示をするわけですね。そしてiPadで正多角形が描けるかという授業を実際にやりました。こちらの動画をご覧いただきたいと思います。

(動 画)

○教育支援課長 子どもたちが1人1台のタブレットを使って、どのようにすれば正多角形が描けるかというところをみんなで話し合いながら学習をするということを2018年度に先行的に実施いたしました。ほかにも理科でタブレットを使ってLEDを点滅させるというような授業も4月からは入ってまいります。また、教科とは別に取り組んできたものとして、企業や大学と連携してプログラミングの楽しさやおもしろさを体験するというのも先行して実施しております。1つの例としては、企業との連携でレゴプログラミング体験というのをやっております。これについても動画がありますのでご覧ください。

(動 画)

○教育支援課長 床に置いてある車のようなものがコンピュータの指示で動いていくわけですね。子どもたちが動きのプログラムを作成して、それが実際に動くかどうかを確かめていく。これについては企業と連携した取組でございます。このほかにも大学と連携して「えびなロボットコンテスト」というのも開催をしております。夏休み前に実施したのですが、これもスクリーンを見ていただいたらわかるように、コースにいろいろな障害物があるのですが、どのようにプログラミングをしてコースを攻略するか、そういうものを試行錯誤しながら子どもたちにやっていただくコンテストを実施したところでございます。プログラミング教育の実施については以上です。

○学び支援課長 私からは奨学金返還補助金事業のご説明をさせていただきます。事業目的から説明させていただきます。20歳代の若者の転入を促進し、転出を抑制することで、海老名市への定住を推進する事業でございます。事業の概要につきましては、海老名市がやき持続総合戦略の取組の方向性の1つとして位置づけている、若者の定住促進策を実現するための事業ということであり、平成29年度から実施しております。対象者は、海老名市に転入した方及び市内在住の20歳代の方。転入者は平成29年1月2日以降の転入者、市内在住者につきましては平成29年1月1日以前から住民登録のある方が対象となります。補助金の額は、奨学金返還月額相当の2分の1、上限を月額2万円ということで設定をさせていただいております。1年間で最大24万円の補助が受けられるという制度です。この2年間の補助金事業において、29年度、30年度の補助実績は、交付決定者29年度211名、30年度は287名ということで76名増加しております。1人当たりの交付決定額の増加に伴い、交付額については1,700万円程度増加しております。続きまして、実施したアンケートの結果を説明させていただきます。「転入を決める際の決め手になりましたか？」という問いに対して、「一番の決め手になった」または「判断材料の一つになった」というところを合わせて34%ございました。転入促進の一端を担えたものと判断しております。次に、アンケート結果の内容のうち、転入者の声を紹介させていただければと思います。まず1つ目、「海老名市はこれまでに住んだどの市町村よりも市の取組が積極的なため住み続けたいと感じました」というご意見、「奨学金返還は、日々の生活においてプレッシャーに感じることもありました、この制度を知って、海老名市の他の友人・知人にも紹介したくなりました、とても助かりました、海老名市に居住を決めてよかったです」というような意見をいただいております。本制度は当初2年間の時限事業ということでスタ

一トしたわけですが、平成29年度、30年度と2年実施し好評であったということで、今年度も実施しております。予算は4,000万円を見込んでおります。補助を受けることの要件として、おおむね5年以上海老名市に居住するというお約束となっております。また、今年度から新しい要件として、海老名市のイベントに参加をしていただいで、その情報をSNS等で発信していただきたいということもあわせてお願いをしておりますので、海老名市の魅力がさらに発信されて転入促進につながればと考えております。本事業につきましては、継続的に海老名市に住んでいただき、子育て等を行っていただくというところですが、定住については拘束をすることはできないというのが現状です。全国的な状況等を見ると、将来的な人口減少が進んでおります。まずは海老名市に住んでいただき、市の魅力を知ってもらい、そのまま定住をしていただく、その一歩となる施策であると私どもは考えてございます。以上で説明を終わらせていただきます。

○市長 協議事項1の「教育大綱について」と、協議事項2の「教育委員会の重点的な取組について」の説明がありました。教育委員の皆様は何かございますか。

○酒井委員 青パトによる巡回パトロールについて、3台になるとどのような効果が得られるのかをお伺いします。青パトを見かけると、割と速い速度で交通の妨げにならない速度で走っているように感じますので、効果を具体的にお伺いします。

○就学支援課長 3台に増やすことで期待される効果についてお答えします。エリアを3つに分けることで通学路だけではなく、児童が通りそうな道で、防犯上の危険がある箇所についてもきめ細やかに回ることができます。1台あたりのエリアを狭くすることで、巡回するだけではなく、丁寧にその場所についての危険性を目視で確認するなどということも期待しているところであります。青パトのスピードもエリアが狭くなることで、通学路については交通安全上だけではなくて防犯上の点検もしてもらいながら、きめ細やかにゆっくり回ることができるようになります。

○酒井委員 青パトが実際に回る中で、道路の状況も確認ができるようになるということですね。道路上で危険な所を見かけたときの通報場所がもう少し明確にわかっていると、地域に住んでいる方の協力も得られて、より多くの目で確認ができると思いますがいかがでしょうか。

○就学支援課長 1つの大きな抑止力であると思っています。あわせて、教育委員会に不審者等の情報が入ったときには、住んでいる地区の方にお伝えして、重点的に回ってもらうこともあります。巡回中の気づいたことは、戻ってきた時に必ず報告を受けるというシ

システムになっています。巡回中に気づいた危険箇所等は私どもで報告を受けて把握をしているところです。通学路はもちろん青パトで巡回をしている以外に、各学校とも連携して、通学路の安全点検の報告を受け、改善をしているという取組もあわせて行っております。PTAから学校を通して教育委員会に通学路の危険箇所等の報告を受けています。

○酒井委員 例えば台風の後等は、通学する際に、全ての通学路を確認することは、青パトの皆さんに見ていただいたとしてもなかなか難しいと思います。それに対して、地域の方たちが、自宅周辺で気づいた危険箇所の連絡先、窓口のようなものはどのようになっているのでしょうか。

○教育長 通学路は来週月曜に点検を行います。市道の関係は、市の道路所管課が全て点検します。教育委員会はその中の通学路を全て点検します。緊急の場合は、道路所管課でもかなり重点的に点検が入ります。朝の青パトによる巡回パトロールが今後始まります。今年度は3台になってエリアが3分割になります。子どもたちの登校時間の朝のパトロールも始まります。そういう中で今まで2台だったのが3台になるということは、簡単に言うと、危険箇所があったらしっかり立ちどまってそこを点検してもらえるようになります。通学路のことで何かありましたら就学支援課にご連絡くださいということはホームページ等で市民の方に周知していくことは今後必要かと思われれます。ただ、市全体の道路管理は所管課がやります。通学路について、何か異常とか不審な点がありましたら就学支援課にご一報くださいというような周知はこれから必要だと思っています。

○海野委員 学校ICTの活用について説明がありました。学校でプログラミングを使った授業が楽しかったという声も聞こえてきます。大学や企業との連携について、今後どのように進めていくかについてお伺いいたします。

○教育支援課長 iPad等は整備を進めているところです。子どもたちの教材は、企業や大学が持っているプログラムはやはり魅力がありますので、今後も大学、企業と連携してプログラミング教育を推進したいと考えております。

○海野委員 iPadは現在どのような活用がされているのでしょうか。子どもたちの需要は増していくと思いますが、今後についてはいかがでしょうか。

○教育支援課長 iPadにつきましては、昨年度、小学校各校45台配付いたしました。今年度はそれに加えて市内小学校に453台を児童数に応じて配分をしております。子どもたちはiPadを使った授業を受けられると考えております。iPadにつきましてはプログラミングのみならず、他教科についても多様な活用を学校で行っております。特に4

月に新しく教科書が変わりますけれども、今回の教科書には二次元コードが教科書に記載されています。そこにタブレットをかざすと、そこに関係した資料が画面上に映し出されます。これからさらなる活用が進むと考えております。

○海野委員 授業で子どもたちが不自由のないようにiPadが活用されるようよろしくお願いいたします。

○松樹委員 プログラミング教育は今非常に重要なところだと思います。大きな話をすれば、今、日本のエンジニアというのはほとんど海外へ出て行ってしまって、基礎的なITの力が低下しているのではないかということも聞こえてきます。子どもたちもこれから15年後には社会に出ていきます。しっかりとここはやっておくべきではないかと思います。先ほど、レゴマインドストームの様子の説明がありましたけれども、これをそのまま小学校の先生たちにやってもらうのは難しい話なのだと思うのですが、例えば小学校でやっているクラブ活動や中学校部活動で取り組むことで、伸びる子はすごく伸びますので、違う道ができるのではないかと思います。青パトの件ですが、青パトの画像は出ますか。この車両をラッピングするのはだめなのでしょうか。えび〜にゃとかのラッピングをする。もちろん子どもたちが身近に感じる効果はありますけれども、市民の安全面や管理体制もあつたりしますので、目立つように車両のほうも何かラッピングができれば一番良いかなと思います。ご検討いただければと思っております。

○平井委員 プログラミング教育ですが、子どもたちも初めてなのですが、先生方も経験が少ないと思うのですね。教職員研修はどの程度考えていらっしゃるか伺います。

○教育支援課長 委員おっしゃるとおり、先生も大変多忙で、多教科を教えなければならないという状況があります。iPad、またはプログラミング教育を推進する1つの手だてとして、ICT活用推進協議会の中で、ICT機器の活用事例というものを市内の教職員の方から上げていきたいと考えております。それを事例集として市内教職員で共有して、さまざまなヒントにしていきたいと考えております。教職員の中にはICT機器の活用に非常にたけている方もいらっしゃいますので、そのような情報発信のもと、広めていきたいと考えております。

○市長 青パトの関係なのですけれども、青パトのラッピングの活用は教育委員会で十分検討していただければと思います。やるならば予算をつけたいと思っています。地域もそれぞれ防犯パトロールをやっているのですね。学校は青パトをやっている。学校と地域との連絡というのは19校それぞれ行っていますか。昨日も私、東柏ヶ谷を回ってみました

が、下校時に地域の方が自治会を中心にパトロールで集まっているのですね。曲がり角にそれぞれ立っています。それは下校時間等を綿密に打合わせをしているのかを知りたい。

○教育長 打合せはしています。

○市長 東柏ケ谷小学校はやっているよね。見ていてわかる。

○東柏ケ谷小学校長 時刻は全てお知らせしています。

○市長 19校全部やっていますか。

○教育長 小学校は下校時刻を全て把握しています。

○就学支援課長 青パトの巡回時間を全ての学校の下校時刻の一番早いところからスタートしています。下校時刻等はこちらのほうで十分把握はしています。

○市長 各地域は防犯パトロールという1つの目的があって、子どもたちのことも含めてやっていると思うのだけれども、地域の防犯対策との連携は絶対必要なので十分にやられたほうが良いと思う。地域の協力がなければ、青パトが3台稼働しても十分ではありません。そういった部分をしっかりと徹底をしていただきたいと思います。先ほど説明がありましたICTについてですが、ICTを進めると数億円かかります。このまま進めると1年間で3億円かかります。パソコン教室を整備するのに1,000万円ぐらいかかりました。そしてパソコンを1台ずつ配置しました。すると今度はiPadの活用を進めるということで、パソコン教室が要らないのではないかという議論がある。国の方針が変化していくという問題がある中で、ICTは進めていかなければならないという部分があるのだけれども、費用もかかる。中学校はパソコンとiPadを併用しているところもありますが、今後、教育委員会としてICT関係はしっかりと方針を持っていただいて、必要な予算を考えていかなければならないと思います。現在、iPadでプログラミング教育を進めていても、iPadを利用する時代が終わってしまうと、また違うものに費用がかかるという問題があるのですね。小学生はこれからというところですが、中学生は意外とiPadのような端末を持っている人は多くて、慣れていて使うことができます。課題は、先ほど平井委員が発言されたとおり、教職員なのです。追いついていけない。だから先生のレベルも上げることが必要です。生徒に教えるスキルが落ちないように今、教育委員会に提案しているのは、機器を新しく入れたときにシステムエンジニアも入れてもらうことです。機器と同社の専門家に指導をしてもらう。機械を入れたら終わりではなく、指導をしっかりと組んでいくことが大切です。業者選定はプロポーザル等でやってみてほしいという話はしています。皆さまには相当費用がかかることをご理解いただきたい。新しい機器を導入

すると3億円はかかります。それだけは承知をしていただきたい。校舎の工事や修理にも費用がかかる。ICTは導入しなければいけない。予算的には、教育関係の予算総額は平成30年度で40億円を超えました。私が市長になったときは20数億円だったのが、今40億円になりました。その要因の1つは学校ICT関係です。もう1つ大きく占めるのは、学童保育です。学童保育は、10年前頃は、補助金にあたる予算は7,000万円ぐらいでしたが、現在は3億円になっています。必要な予算と承知していますけれども、これから中学校給食が入ってさらに自校給食になると大きく変わります。保護者の皆さんのアンケートでは、給食にしてほしいというご意見はありますけれども、設備投資がありますので、全体のバランスを考えて、どのようにやっていくかということで私からお話をさせていただきました。

○教育長 多額の教育予算を毎年つけていただいています。どうもありがとうございます。ICT関係でいうと、既にパソコンは今の機能として遅れてしまう。ICT機器は3年もかからないくらいで技術革新が進みます。情報伝達も5G、6Gの時代になっていきます。文部科学省も経済産業省も先を見据えた時代に入っています。このような中で学校教育もかなり変わるはずなのです。現在、iPadが1個入っただけで教育の内容、学び方が変わる時代になりました。学校の先生方はそれに対して十分対応しているし、それを活用していると私は思っています。ただ、ふだん使うのは企業などではなくて教員なのです。教員が活用する。このようにしなければいけないということではなくて、それは便利な道具でしかありません。便利な道具を使って授業を改善していくという方法ぐらいかなとは思っています。でも海老名市全体の中で、理解を得て予算をいただいて施策を打っているのですけれども、私自身としても先の見通しを持って、パソコンの導入とパソコン教室の整備をしたことは、20年経過した今となっては、無駄とまでは言わないけれども、そこに反省点はあると思います。先を見通した施策を今後考えるのが我々の責任かなと思っ

ているところです。

○市長 傍聴の方がいらっしゃいますけれども、具体的な取組に入っています。何かご意見はございますか。よろしいでしょうか。先生方は何かありますか。よろしいでしょうか。それでは続きまして、修学旅行の検討委員会の中間報告をよろしく願います。

○教育支援課長 中学校の修学旅行ですが、今年度5月から6月にかけて中学3年生で実施しました。中学3年生の生徒及び保護者に対してアンケートを実施いたしましたので、その結果をご報告いたします。子どもたちにはアンケートに無記名で記入をしていただく

という方法で回収をいたしました。設問は画面に出ているような7問です。⑥については楽しい思い出をつくることができたかという理由も含めて、⑦については今後の修学旅行に向けての意見や提言、これは任意回答ということでアンケートを実施いたしました。まず「①事前の学習を活かすことができたか」という設問に対して、このような結果になりました。この後、円グラフが続けて出てくるのですが、青色系のものは肯定的な意見、赤色系のものは否定的な意見とご理解いただければと思います。「事前の学習を活かすことができたか」というのは、旅行先に行く前に事前に子どもたちは調べ学習をしていますので、それを活かすことができたかということで、肯定的な意見は9割以上ございました。続いて「②豊かな自然や文化に触れることができたか。」これは「そう思う」が9割以上の高い数字が出ております。「③友だちと友情を深めることかできたか。」これも9割以上が肯定的な意見です。子どもたちの意見の中には、実施時期が5月、6月ということで、新しい友達、今まで余り話さなかった人とも話せるようになったという意見もありました。「④旅行先で出会った人と交流を深めることができたか。」これも9割以上が肯定的な意見です。「⑤貴重な体験活動をすることができたか。」これも9割以上とかなり高い肯定的な意見をいただいております。そして「⑥楽しい思い出をつくることができたか」というところですが、これもかなり高い数字で肯定的な意見を得ることができました。ここまでのところを見ていくと、子どもたちの修学旅行に対する満足度は非常に高いと推測できると思います。そして「⑦子どもたちから、今後の修学旅行に向けての提言」をいただきました。「ない。今までのままでよい」というのが73%でした。意見や提言があるという生徒は27%であり、その主な内訳が棒グラフで出ているのですが、一番多かったのが旅行日程についてです。具体的には「自由時間が少ない」とか「散歩する時間が短い」というようなご意見が一番多かったです。それから次に多かったのが旅行先です。「このような場所に行きたい」という意見です。それから3番目として、「民泊はやめてほしい」というものもありました。「みんなでホテルに泊まりたい、体験に差がある」という意見もありました。次に多かったのが持ち物についてです。持ち物については、「スマートフォンを持っていきたい」という意見が多いです。このような意見や提言をいただいたところがございます。続いて、保護者に向けたアンケートを実施いたしました。対象は市内中学校3年生の保護者、つまり子どもが修学旅行に行った保護者ということでございます。回収率は25%で、学校メールという方法で回答をいただきました。設問については、このとおり5問です。最後の⑤については、保護者の方からも意見や提言を

任意回答でいただいたところでございます。では「①お子さんは楽しい思い出をつくる
ことができたと思うか。」これは高い数字で肯定的な意見をいただくことができました。

「②教育的観点から有意義であったと思うか。」こちらも高い数字で肯定的な意見が得
られました。③については、今年度より中学3年生の保護者に対して市から1万5,000円補
助を出していますので、それについてです。「③補助金を交付しますが、修学旅行の費用
について負担を感じますか」というところで、「感じる」「どちらかといえば感じる」と
あります。これについては右側下のほうに示しましたが、平成29年度に、保護者負担経費
検討にかかるアンケートで同様の質問をしています。そのときと比較すると、負担は軽減
できたと思えることができると思います。「④価格抑制方法の検討を行うことについては
どのようにお考えか」、これは「賛成」「どちらかといえば賛成」という意見でございま
す。中には「反対」というご意見もありましたけれども、価格を下げることによって質が
下がるのではないかという心配の声も私のところには届いているところでございます。続
いて「⑤今後の修学旅行に向けての提言」なのですけれども、これは赤いグラフになって
います。「ある」と回答したところを色分けするとこうなりますが、中には応援メッセー
ジ等のご意見もあります。内容について一番多かったのは、「民泊には反対である、民泊
先の体験等に差がある、なぜ修学旅行で民泊体験なのか、自然災害時、または急に体調が
悪くなった、アレルギー等に対応できているのか」というようなご意見が一番多かったで
す。次に多かったのは、「民泊は悪くないが、1泊はホテルにみんなで一緒に泊まりた
い、みんなで共有の思い出がもっとあってよい」というようなものでした。次に多かった
のは、「民泊賛成だ、貴重な体験をさせてもらった、民泊先の家族とよい交流ができた」
というご意見です。「家族旅行ではなかなか経験できない体験」というご意見もありまし
た。次に多かったのは旅行先についてです。これは泊まる場所も検討してほしいというこ
とでした。修学旅行のアンケートについては以上です。

○市長 中間報告としてのアンケート結果でありますけれども、これは最終的には教育委
員会から報告をするようですね。

○酒井委員 中学校によって行き先とか日程が違うと思いますが、アンケート結果が学校
でわかりやすく違いがあったところとかはありましたか。

○教育支援課長 中学校6校のうち、今年民泊を行ったのは5校です。観光型の修学旅行
を実施したのが1校です。観光型のほうには提言等で民泊のことは一切触れられておりま
せんでした。民泊を行った5校については、ほぼ同様のアンケート結果だったのですけれ

ども、子どもたちは、民泊にしる観光型の修学旅行にしる、おおむね満足度は高いという結果が得られました。

○市長 親と生徒の感覚は違うのですね。最も大切なことは安全安心なのです。民泊を私は反対していません。ただ、農業体験だったら海老名市でできます。農家はいっぱいあります。ところが、海とか、海老名市にない産業があります。海老名市にない産業を体験することはよいと思っています。地元これだけ農家があつて、様々なことをやっています。宿泊するかどうかは別にしても、農業体験は、これだけ豊富な農業資産があるですから、別枠で体験させることに私は理解ができません。また、民泊を考えると、今までの水害や災害に対して、住んでいる人はこう言います。70歳台の人が、「私が生まれてからこんなに雨が降ったことはなかった」と、みんな言っていますよね。そこが恐ろしいところです。海老名市からは遠い旅行先まで消防の救助隊を出せません。そうすると旅行先の地域で救助隊を出せるかということになります。人口減少が起きている町村になると十分な体制ではないのですね。海老名市が富士ふれあいの森を撤退したときに、富士河口湖町に確認しました。富士山が噴火して、海老名市の子どもたちが富士ふれあいの森にいた場合、救助してくれませんか確認しましたら、それはそちらでやってくださいと言われてました。安全安心というのは、歴史上、今まで安全だったから問題はないというのは過信であつて、何十年ぶりの大雨が降ったときに、民泊していたところが土砂崩れに遭わないとか、細部にわたって安全安心のことを考えながらやっていただきたいということが1つあります。もう1つは、奈良・京都は今、外国人観光客が相当多くなって、単価が高くなっていると思います。価格面の調整が必要になっています。市としては補助金を出していませんけれども、入札方法を変えることによって、あるいは時期を変えることによって、ある程度調整できるのではないかと思います。細部にわたって、来年度に向けてどのように進めていくかというのは早急に出さないとおくれてしまいます。その辺を検討委員会で緊張感を持ってお願いをしたいと思っていますのでよろしくお願いします。子どもたちに直接話を聞くと、「民泊より京都・奈良に行きたい」とか、「ユニバーサルスタジオジャパンに行きたい」とか、「北海道に行きたい」という意見は出てきます。生徒に意見を求めると、意外と良いという意見もあるのですが、保護者は絶対に民泊は反対です。お金を払うのは保護者ですから、十分な話し合いをお願いしたいと思います。

○教育長 今回はアンケートの結果だけですが、今後、海老名市修学旅行検討委員会の結果をもとに話し合いをおこなっていくのですが、海老名市修学旅行検討委員会のこれまで

の経過みたいなものを短目に話すことはできますか。

○**教育支援課長** これまで3回海老名市修学旅行検討委員会を実施しています。市長がおっしゃったように、価格抑制、民泊の方法、保護者へ学校からの説明責任について、教育委員会の中でも上がっております。学校側は、民泊の意義を高く捉えております。それは今の子どもたちにとって、ふれあいであるとか、そのようなものを味わう絶好の機会であるという部分もあります。その考えを保護者に対して十分に説明責任を果たしていくことを考えていかなければいけないと思います。

○**教育長** 旅行者からはどのような話を聞いていますか。

○**教育支援課長** 旅行者から情報提供をいただいているところで、実際に入札方法、価格抑制の方法については具体的なところはこれからという状況です。

○**市長** 様々な改善をしていただくようお願いします。地方の子どもたちと交流等をおこなった場合、補助金が出るという制度もあります。ただ、2泊3日では対象外で4泊5日ぐらいでないと対象とならないのです。4泊5日となると引率教員の事情も考えなければなりません。国から補助金が出る地方創生を目的としたものは日数が長いのです。日数が長くなった場合の教職員の負担等については大きな課題になってくるのではないかと思います。さまざまな視点で検討をしていただきたいと思います。保護者の方にお伺いします。民泊は賛成ですか。

○**傍聴人** 今、中学生の子どもはいませんが、中学校での修学旅行を考えると、子どもは民泊をあまり望まないと思っています。

○**市長** 保護者としてはどうですか。

○**傍聴人** 市長がおっしゃった安全安心のことを考えると、何かあったときに怖いので、制度が整っているような施設に泊らせてもらえるほうが安心です。

○**市長** ほかにはございますか。私は集団で京都・奈良へ行きましたし、大阪万博も行きました。1日長かったのかな、そんな感じがしたのですね。そのときは、ロシアのものしか見られなくて、アメリカの月の石は長蛇の列で見られなかったのですが、思い出があります。よかったですよ。修学旅行については今後十分に検討をよろしくお願ひしたいと思います。それでは、海老名市学校給食検討委員会によるアンケート結果の報告をお願いします。

○**就学支援課長** 海老名市学校給食検討委員会も第3回目の委員会が終わったところです。第1回目、第2回目では学校給食の現状と課題を整理するというところでした。平成

19年度に学校給食検討委員会が開催されていますので、そのときの状況、学校給食検討委員による小中学校の現状、市の栄養教諭による報告等を行い、実施状況などを評価してきたところです。あわせて学識経験者で鎌倉女子大学准教授に参加していただき、スーパーバイザーとして鎌倉市や川崎市の状況を報告していただき、情報を整理してきました。第3回海老名市学校給食検討委員会では、このアンケートについてお示しして検討を進めてきたところです。それでは、アンケートについて説明をしていきたいと思います。アンケートは7月に実施しました。質問紙で、児童、生徒、教職員に対してのアンケートを行いました。学校メールのアンケート機能を使いまして、保護者にアンケートを実施しました。保護者のほうは小学校及び中学校の保護者全員を対象とし、アンケートを行い、回答率は30.4%でした。アンケートの詳細についてお伝えします。まず小学校児童の結果です。設問は、「給食は好きですか」「給食は残さず食べていますか」です。6年生には「中学校での昼食はどのようなスタイルがよいですか」と伺っています。結果は、「給食は好きですか」というところでは、「はい」と答えた児童は89.1%、「いいえ」は10.9%でした。「はい」と答えた理由としましては、「好き嫌いが克服できるから」「家で食べないメニューが出るから」「友達と一緒に食べられるから」というところの記述が多かったです。嫌いな理由は、「野菜が苦手だから」とか「牛乳が嫌いだから」というところです。続いて、「中学校での昼食はどのようなスタイルがよいですか」というところですが、67%が家庭弁当を中学校での昼食として望んでいます。海老名市学校給食検討委員会でも話題になっているのですが、小学生にとっては、お弁当というのは行事食というイメージがあって、運動会、遠足のお弁当をイメージしているようでした。続いて中学生です。生徒への質問項目については「昼食はどのような方法でとっていますか」「昼食の時間は、たりていますか」「中学校での昼食はどのような方法でとるのがよいと思いますか」ということを伺っています。「昼食はどのような方法でとっていますか」という質問に対し、77%が家庭弁当、10.5%が注文弁当、11.6%が家庭弁当と注文弁当を併用しているという回答でした。ただ、その他の0.7%について気にはなっているのですが、コンビニエンスストアのお弁当、菓子パンなどという回答もありました。次に、「昼食の時間は、たりていますか」という質問に対し、「十分たりている」が50%、「たりているが、もう少し時間があるとよい」「たりない」が40%でした。その理由としましては、「授業が長引くと食べる時間が足りなくなる、食べる時間が短いとどうしても速く食べるようになってしまう」という記述が見られます。続いて、「中学校での昼食はどのような方法で

とるのがよいと思いますか」。という質問に対しては、小学生同様、64.4%が家庭でのお弁当を望んでいます。ただ注文弁当も11.6%、それから給食については23.8%です。ここで給食というところに注目してみると、「母親に迷惑がかかる、荷物にならない、おかわりが自由にできる、自分でつくる時間がない」という自由記述がありました。続いて教職員です。教職員には「小学校の給食についてどう思いますか」、「よい」または「どちらかというとよい」、「わるい」または「どちらかというとわるい」というところから選んだ理由を複数回答求めています。「小学校の給食についてどう思いますか」というところでは、73%が「よい」「どちらかというとよい」、それから「どちらかというとわるい」「わるい」では27%で回答をいただいているところです。詳細につきましては、「よい」または「どちらかというとよい」を選んだ理由は、「栄養バランスが良い」「あたたかいものが食べられる」「食育推進につながる」「嫌いなものが食べられるようになる」からというところを選択いただいています。その他の回答では、「皆が平等に食べられるから」「家庭状況・生活習慣等の理由から、給食が必要な子がいるから」「子供が喜ぶ季節感の演出が素敵です」「嗜好によらず、様々な食材に触れられるから」「当番等を通して、責任感を育めるから」というところで、「よい」の理由として記述がありました。続いて「わるい」「どちらかというとわるい」を選んだ理由としましては、「おいしくない」「量が少ない」「児童が嫌いなものが結構出るから」というところの選択のほか、「その他」が58.0%です。その主な理由は、「アレルギー対応が多様になっているから不安」「おかずの量が少ない、栄養の偏りを感じる」「献立のバリエーションが少ない」「バランスが悪いのでは」「メニューが固定化され、野菜が少ない」「牛乳はごはんに合わない」というご意見をいただいているところです。続いて中学校教職員です。質問項目としては、「中学校の昼食の方法として何が望ましいと思うか」「現在のまま」「小学校同様の給食がよい」という項目で質問をしています。中学校の昼食の方法として何が望ましいかというところの回答の結果ですが、「持参弁当・注文弁当」、いわゆる現行の方法がいいというところで81.0%の回答をもらっています。中学校の主な教育課程を示させていただくと、昼食時間20分という前提があります。続いて、現在のままがよいを選んだ理由としましては、「アレルギーの心配がない」それから「食べる量を調節できる」「家庭の手作り弁当を食べさせたい」というところで中学校教職員の回答になっています。あわせて、その他というところを選んだ理由としましては、「忙しい家庭は配食弁当がありがたい」「選択できる事由があつてよい」。お弁当と注文弁当が選択できるところがよいと

ということですね。それから「給食指導の手間が大変、配膳に時間がかかる」「食材のごみが多量に出る」「教員の多忙感の解消」になる。「担任が食事をとる時間もないほど忙しい」というその他というところへの自由記述が見られました。続いて、15.5%の「小学校と同様に給食がよい」を選んだ理由としましては、「栄養のバランスが良い」「保護者が弁当をつくらなくてよい」「あたたかいものが食べられる」という回答がありました。

「その他」を選んだ回答が38.5%ありました。その主な記述としましては、「家庭状況によらず、同じものが食べられる」「家庭への負担軽減になるから」「子どもたちは、給食が好きだから」「職員の事務的負担軽減ができる」「生徒間差が生まれない」というご意見でした。最後に保護者のアンケートの結果です。保護者については、小学校で2,346人、中学校で1,104人、あわせて3,450人で30.4%の回答率でした。大きく2つに分けて尋ねています。1つ目としては、小学校の給食について、「よい」「どちらかといえばよい」、「わるい」「どちらかといえばわるい」を選択させ、選んだ理由について伺っています。それから2つ目としては「中学校の昼食の方法として何が望ましいと思いますか」という設問に対して、「現在のままがよい」「小学校と同様に給食がよい」を選択させ、選んだ理由について伺っています。まず「小学校の給食についてどう思いますか」という設問では、「よい」「どちらかといえばよい」というところで92.8%の肯定的なご意見をいただきました。その「よい」「どちらかといえばよい」を選んだ理由としましては、「栄養バランスがよい」「あたたかいものが食べられる」「弁当をつくらなくてよい」「嫌いなものが食べられるようになる」というところでそれぞれ回答があります。「わるい」「どちらかといえばわるい」の理由としましては、「美味しくない」「量が少ない」というところでのご意見をいただいております。続いて「中学校の昼食の方法として何が望ましいと思いますか」というところについてですけれども、保護者の方は「小学校同様の給食」で90.1%の回答をいただいております。自由記述については、「海老名には給食センターがあるのにどうして中学校には給食がないのですか、ほかの市では中学校は給食なのに、どうして海老名ではやらないのですか、共働きの家庭もふえているので給食にしてほしい」という意見が記述式の回答からは出ているところでございます。最後、小学校同様の給食を選んだ理由です。90.1%の回答中、選択項目で「栄養のバランスが良い」「あたたかいものが食べられる」「弁当を作らなくてよい」というところが「小学校同様の給食」を選んだ理由として率が高いところです。以上で学校給食に関するアンケート結果の報告を終わります。

○市長 アンケートの中間報告ですけれども、委員の皆さんからございますか。

○松樹委員 まだ中間報告ですので、最終報告が出ましたらまたぜひ聞きたいと思います。冒頭で教育長がおっしゃったことが顕著に出た結果です。生徒の75%ぐらいは家庭弁当・注文弁当がよい。教職員の8割ほどは持参弁当・注文弁当がよい。保護者の方は90%が給食を望んでおります。本当に分かれている結果だと思えます。保護者の方では「弁当を作らなくてよい」というのが63.9%という形であるのですが、私も教育長がおっしゃったように子どもたちが一番であるべきだと思います。だからといって給食はだめだということではなくて、先ほど市長がおっしゃったように、今までの経過があるのだと思えますし、どのようにやっていくか、施設の問題もあります。施設費用は安いものではありません。現在、生徒が増えていても、30年、40年使っていったときに、生徒が減少したときにどうするのかということも考慮しながら判断していかなければならないと思っております。

○平井委員 それぞれの立場で正直に答えているなということをこのアンケートから感じました。その中で「中学校での昼食はどのような方法でとるのがよいと思えますか」の「家庭弁当」が64.4%ある中で、「母親に迷惑がかかる」ということが載せられているのですが、こういう思いを子どもにさせてしまうのはちょっと切ない思いがします。母親にお弁当を作ってもらうのに、そこまで子どもが気を使わなければいけないというのは、子どもが遠慮しなければいけないという、親がそのあたりのところをどのように酌んでいるのかなという、そういう思いもあります。中学校の給食を全面的に否定するわけではないですが、これだけそれぞれの思いがある中では、どういうものが海老名市にとってよいのかを考えるにあたって、様々な条件を考えていく必要があります。子育ても含めて海老名市として中学校の給食をどのような位置づけにしていくのかということも少し時間をかけて話し合いをしていく必要があるのではないかと思います。

○海野委員 今の中学校の状況ですが、先生方がごらんになって、この子はしっかりと食べているのかなという心配に当たるような生徒さんはいるのでしょうか。

○市長 今、子どもはほとんど食べているでしょう。昼食を食べないで外へ行ってしまうという子どもはいないのでしょうか。

○教育長 いないですよ。

○市長 昔はいたけれどもね。私たちのころは。

○教育長 私が中学校にいるころもいました。

○市長 小学校でもいたかな。いわゆるお弁当を持ってこないで、昼食のときには出ていってしまう。今、ないですよ。むしろ今は、ウサギの絵が描いてあったり、ウインナーがタコになっていたりして、手のこんだ弁当になっているように感じます。

今後、中学校で新しく導入するとすれば食堂しかないと思います。食堂で会食する以外にないです。お弁当を持ってくる人はお弁当、給食ではなくて、メニューを見てA定食、B定食、C定食でカロリーの計算をしておくものを出すような時代です。私立中学校はみんな食堂じゃないですか。やっていないのは公立だけです。学校数が少なくなるということと生徒数が少なくなることで、学校のスペースがあきますから、食堂形式が可能になる。お弁当を食堂で食べてもいいし、栄養バランスがとれる定食をつくれればよいということなのです。中学生ですから、サンドイッチなんかを置いてあれば、部活動がある人はサンドイッチを買えばいい。そんな時代になってきます。小学校は統一的な部分も必要だとは思いますが、中学校はそれぞれで選択できればよい。それまでの間どうするかという問題が今回の課題なのです。子どもは弁当を望んでいる、保護者は給食を望んでいる。先生も弁当がよいという意見を持っている。ここで方向性をどのように持っていくかということこれから海老名市学校給食検討委員会で検討する。実施するという方向で、何らかの方法で進めていくことが必要だと思います。例えば、1週間のうち平日毎日やれるのかということ、それだけの供給をする場所がないのです。食の創造館では米は今の数は何とかできる。副食ができません。そこをどのようにクリアするかということが今後の課題だと思います。設備投資をしても10年経過して、設備が要らなくなるというのでは困ります。愛川町では親子方式での給食を実施します。小学校でつくった給食を中学校に配食する。給食を配送すると用途が工場になってしまうことによって、県の許可の問題が出ています。小学校の給食を中学校へ運ぶと、小学校の給食の調理場が工場として扱いを受けてしまうので、配置等、規制が加わってしまうのです。海老名市の方法についても、海老名市学校給食検討委員会でさまざまな検討をお願いしたい。それから、中学校で実施しているところを視察したほうがよいです。中学校給食を復活させたら、米飯だと残食が出ず、パンのときは半分以上残食があるということを聞いています。考えてみればそうなんです。朝はパンを食べるでしょう。昼もパン、夜もパンの家もあるから、3食ともパンを食べる家庭も考えられます。よって、どういう形がよいのかということもありますけれども、周辺地域で実施しているところの現場視察をお願いしたい。そのことも海老名市学校給食検討委員会で早急にやってください。来年度予算にかかわりますので、12月までには

第1次報告書をいただかないと予算に反映できません。これはぜひよろしくお願ひします。教育委員会は、来年度はやらないという方針ですが、2学期から始めるといったら当初予算ではなくて6月補正予算でよいかもしれません。予算に関するところは慎重に願ひしたいと思います。給食について皆さんのほうからありますか。

○傍聴者 我々の小学校時代はご飯を食べられないという時代でした。僕自身は給食の経験はないのですが、これだけ豊かになっている中で、食のありがたさを教育の中で考えることを幼稚園も含めてやってほしいと思うのです。これからの検討をよろしく願ひしたいと思います。

○市長 大切なことですね。食物残渣が多いとって残飯がごみに出ている。ありがたさということを含んでいかなければいけないと思います。ご意見を海老名市学校給食検討委員会の中で協議していただきたいと思います。

○教育長 今、修学旅行と学校給食のアンケート結果を皆さまがご覧になって、これが90%になっていると、これでよいのだと思う人がいるかもしれませんが、例えば先ほど子どもたちの10%が小学校の給食に嫌だと答えています。10人に1人の子どもが給食は嫌だと思っているということを見ると、とても大変なことなのです。全てのデータが円グラフで出たと思うのですが、例えば4分の1の先生、4人に1人の先生が今の給食はだめだと答えたのと同様です。そのような見方をしてください。数字というのは丸めるとそれでいいような感じがするのですが、少数のところにもさまざまな意見があるということです。アンケートの数に流されず、アンケートは考えるもとであるという位置づけですので、皆さんもアンケート結果についてはそういう意味でご理解いただけるとありがたいと思います。

○酒井委員 保護者の立場で考えると給食になってくれればよいと思うのですが、最初に教育長がおっしゃったように、スチューデントファーストというのは子どもたちが望むことをするのではなくて、子どもたちにとってよいと思われるものを大人が準備してあげる、そういうことが本当のスチューデントファーストだと思います。子どもはお弁当がよいと言っているけれども、保護者のアンケートのほうで、「楽だから」というところももちろん目は引きますが、「栄養のバランスが良い」とか「あたたかいものが食べられる」という、それが今の方式ではないというところに保護者が不満を感じているところがあるのだということを感じていただければなと思います。冬の寒いとき、冷たいお弁当を食べているのだらうなと想像します。社会人になるとなかなか冷たい弁当というのは食べる機

会がなくなります。毎日毎日冷たいご飯を食べているのはどうにかしてあげられたらなと、思っております。

○市長 私は各フロアに電子レンジを3台ぐらい置くことは構わないと思っています。でも、それは学校の先生が嫌がる。何か事件があったら嫌だとか。同様に学校を掃除機で掃除をすることについても反対されました。学校の掃除を掃除機でやったほうがよいというのは、ほこりが多いからです。掃除したときのほこりが舞い上がってしまって、エアコンの中に入ってしまうわけです。エアコンも汚くなるし、食事の時にほこりが舞い上がっていること自体がおかしいから、ほうきを使ってもいいけれども、最後は掃除機で吸い取ったらという話をしました。廊下はロボット掃除機でやったらどうですかと言いました。するとロボット掃除機を置いておくと、壊されてしまうと言うのです。それは壊した人間が故意に壊したら弁償してもらえばよいけれども、使っていて壊すぐらいなら仕方ないのではないかと思います。さきほどのICTと同じなのです。ロボット掃除機の動きはプログラムによって決まっているわけです。自分たちがプログラミングするということは、ロボットを動かすということで、現実にはロボット掃除機は動いているわけですから、そういったことを見せるのも必要なのではないですかと言いましたけれども学校の受け皿の問題なのです。給食に関しては、最初は売店方式でもよいと思っていました。でも、売店方式でやると学校にお金を持たせたくないという意見があります。しかしながら、教材費とかPTA会費は持たせていますよね。それぞれ買った物の確認がとれれば、集金日等に集めてもよいのではないかとも思います。今後、学校で扱うお金は、私はできるだけ公会計にしたいのです。公会計にすることによって、ある程度保護者の負担軽減ができる。しかしながら公会計にすると未納も多くなります。集金すると払うのだけれど公会計にして金融機関への振込みにすると振り込まないのです。ところが、修学旅行費は振り込むのです。私は修学旅行費も公金にしたいのです。あれだけの額ですから。修学旅行は旅行会社と契約していますね。旅行会社は倒産しても、補償をしてくれると言いますがけれども、実際は補償してはくれませんからね。倒産した旅行会社がありましたよね。全額補償はないです。会社が倒産するときには補償どころではない。もっと大きな負債がありますから支払った旅行費は戻ってきません。ですから私は公会計にしたいのです。公会計にして、税金として旅行費を集めて、それを公のお金として旅行の費用を払いたい。ところが、公会計にすると現実には未納金が増えます。給食費がそうです。そこが問題なのです。今そこで悩んでいる。食べたものを親が払ってくれない。食べさせないわけにいかない。給食費を滞

納するならば、例えば医療費助成制度を受けられないようにするとか。恩恵を全部受けて、払うべきものは払わない、これでは済まない。給食費の未納金についても検討していただきたい。あとは、子どもたちにとってどのような環境がよいかということについては、教育委員会と学校現場でお話をお願いしたい。特に中学校の場合は、給食となると昼食の時間全体が長くなります。1日のカリキュラムが変わるので、学校現場の職員と慎重に議論していただいて進めることが必要だと思います。今の流れは、給食をやっていくという方向です。学校現場と議論した上で、市長部局としては予算をつけるところはしっかりとつけていきます。それでは、ここまでで協議事項を終わりにします。この後、5分休憩でよろしくをお願いします。

○**教育部長** それではレイアウト変更を行いますので、5分ほど休憩したいと思いますのでよろしくお願いたします。

(休 憩)

○**教育部長** それでは次第4、柏ヶ谷小学校からの学校紹介を行います。改めてご紹介いたします。柏ヶ谷小学校の児童の皆さんです。会場の皆様、大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

柏ヶ谷小学校の皆さん、こんにちは。このたびは総合教育会議にご参加いただきましてありがとうございます。今回、4名の児童の皆さんに自分たちの学校紹介を行っていただきます。ご説明いただく児童の皆様、1人1人自己紹介をお願いいたします。

(自己紹介)

○**教育部長** それでは、早速皆さんの発表をお願いいたします。

○**児童1** これから海老名市立柏ヶ谷小学校の学校紹介をさせていただきます。私たちの学校は創立56年を迎え、海老名市で4番目に古い学校です。2年生、5年生、6年生が3クラス、1年生、3年生、4年生が2クラスの学校児童が459人の学校です。校庭には桜の木がたくさんあり、春は満開の桜がとてもきれいです。新年度には桜を背景にクラスの集合写真を撮るクラスが多いです。柏ヶ谷小学校は相鉄線のかしわ台駅がとても近くにあります。2年生のまち探検や3年生からの総合の学習などでとてもお世話になっています。また、校外学習で電車を利用するときも、学校から近いのでとても便利です。学校の花壇には多くの学年がいろいろな植物や作物を育てています。成長の様子を観察したり、実った作物を食べたりしています。その中でも5年生はお米を育てています。学校の中にミニ田んぼをつくり、地域の方に教えていただきながら田植えをしたり、スズメよけのネ

ットを張ったり、かまを使って稲刈りをします。自分たちで育てて収穫できるときはとてもうれしいです。

○児童2 柏ヶ谷小学校のキャラクターをご紹介します。「かしぼんだ」と「かしわんこ」です。頭に柏の葉を載せているのが特徴です。学校からのおしらせに載っていたり、先生たちの運動会のTシャツに描いたりしています。僕たちも修学旅行のしおりの表紙に描いたりしています。とてもかわいいです。次に、マスコットの存在の2羽のウサギを紹介します。茶色のココアとグレーのカルピスです。飼育員が毎日お世話をしています。休み時間になると、様子を見たり、触れ合ったりしています。職員室前の廊下で動き回っている姿を見ると、本当にかわいいです。

○児童1 学校生活目標は「思いやりの心を広げよう」「あいさつをしよう」ということで、思いやりとあいさつに力を入れています。正門をくぐると、あいさつの日時計と思いやりの塔があります。私たちは1学期の図工でお気に入りの場所というタイトルで絵を描きました。その中でこの日時計や思いやりの塔をお気に入りの場所として選んで描いている人も何人かいました。

○児童2 ここであいさつと思いやりに関する学校の取組を紹介したいと思います。まずあいさつについてです。昨年度までも朝のあいさつ運動を行っていましたが、今年度からはもっとあいさつを増やすために、あいさつの聖火リレーというオリンピックにちなんだ活動をしています。これは担当のクラスがあいさつ向上プロジェクトを企画し、1週間行います。担当のクラスがしっかりわかるように、クラスにはフラッグとトーチが回ってきます。実際にこのフラッグとトーチを使ってあいさつをしているクラスもありました。それがこの写真です。4月に実際に行われた活動として、世界の言葉であいさつをしたり、声の大きさや、目を見てあいさつをできたかなど、あいさつを金、銀、銅に分けて評価するなどいろいろな活動がありました。どんな活動をするか自分たちで考えて行い、やっているととてもおもしろいし、その週の担当として任せられているので、責任感を持って取り組みます。そのおかげで少しずつ学校全体としてあいさつがふえてきました。

○児童1 次に、思いやりに関する昨年の児童会の取組であるトンガ王国への寄附について紹介します。この取組のきっかけは、教育長さんからの手紙でした。その手紙の内容は、昨年2月に台風で大きな被害を受けたトンガ王国の子どもたちのために、使わない学用品を集めてもらえませんかということでした。運営委員、代表委員会で話し合っ、ぜひトンガ王国の子どもたちの力になりたいと思い、学用品を集める呼びかけをしまし

た。2学期の終わりの約1カ月間を集める期間として呼びかけた結果、ノート192冊、消しゴム171個、鉛筆段ボール3箱分もの数を集めて寄附することができました。予想以上の量が集まって驚きましたが、トンガ王国の子どもたちに私たちの思いとともに届いているとうれしいなと思います。

○児童3 ここからは学校の行事を2つ紹介します。まずは僕たち運営委員が中心となって行っている行事を紹介したいと思います。1つ目は一年生スマイルフェスティバルです。僕たちの学校では入学してきたばかりの1年生に3から6年生がクラスごとのお店を考えてもてなします。2年生は1年生とペアになって一緒にお店を回ります。3年生から6年生も前半、後半に分かれて仕事とお店を回る時間を分担します。この活動では、どんなお店にするかを自分たちで一から考えます。お化け屋敷、迷路、射的、ボウリング、箱の中身当てゲームなどいろいろなお店を用意して1年生に楽しんでもらっています。1年生に楽しんでもらうために協力して準備をしたり、仕事をしたりするので、クラスの関係性も高まります。1学期の中で一番楽しい行事だと思います。2つ目は6年生を送る会です。お世話になった6年生の卒業のお祝いとともに、感謝の気持ちを伝える会です。初めは体育館で6年生に呼びかけて歌を歌います。その後、各クラスに6年生を数名ずつ招待し、一緒に遊んだり給食を食べたりして過ごします。6年生と一緒に遊んだりすることはふだんなかなかできないので、とても楽しいです。さらに、6年生に、3、4、5年生で分担して手づくりのプレゼントを渡しています。一昨年は牛乳パックを使った小物入れ、昨年は写真入れを手づくりしました。毎年喜んでもらえているのでとてもうれしいです。今年は自分たちが送られる番なので楽しみです。続いて、2学期に行われる大きな学校行事を3つ紹介します。まずは運動会です。今年も9月28日土曜日に行われる本番に向けて練習に取り組んでいます。写真は去年の各学年の表現の演技です。どの学年も一生懸命練習した成果は本番で見せられたと思います。衣装や表現にも工夫があって見応えがあります。僕たちは去年、ソーラン節を踊りました。手づくりのはっぴと鉢巻きを身につけて、大きな大漁旗もつくって演技をしました。そして、今年は組み立て体操に挑戦しています。去年の6年生の演技を見て、すごいと思った組み立て体操に自分たちが挑戦する番が来たのだと思うと、小学校生活最後の運動会にやる気を持って頑張ろうと思います。今年もどんな運動会になるかとても楽しみです。

○児童4 次に、音楽会です。音楽会は日ごろお世話になっている方々を招待して行う音楽会と、翌日おうちの人が見に来る音楽会と2回やります。音楽会は合唱と合奏を行いま

す。特徴的なのは、運動会の衣装で演奏することだと思います。合唱では簡単な劇があったり、合奏ではステージの前だけではなく横に移動したり、演出が工夫されています。私たちが演奏中に移動し、最後に運動会で使った大漁旗を先生の協力で壇上に掲げる演出しました。音楽会が始まる前には、ロビーコンサートと言って5年生と6年生がそれぞれ担当して、会場にいる人を囲むようにして並び、歌を歌います。それから音楽会が始まります。全学年の発表が終わると、最後には毎年先生たちが合奏を披露してくれます。何人かの先生たちがサプライズで歌ったり踊ったりしてとても盛り上がります。それでは、その様子を少しごらんいただきたいと思います。

(動 画)

○児童4 次は、「柏小まつり」について紹介します。「柏小まつり」は、PTAや地域の方々が楽しめるお店を出して僕たちを楽しませてくれる行事です。ストラックアウトやドッチビーなどのスポーツのお店やものづくりのお店、動物たちと触れ合えるお店、さらに煙ハウスや起震車などの災害を体験することもできるお店もあるので、防災への意識も高まります。さらに先生たちが仮装するウォンデットというものもあります。仮装した先生方を見つけると、カードにスタンプを押してもらいます。全員からスタンプを集めると景品がもらえるというものです。毎年、どの先生が何の仮装をするのか楽しみです。多くの人たちが私たちのためにたくさんの準備をしてくださるおかげで楽しむことができているので、本当に感謝したいと思います。

○児童2 最後に、私たちの柏ヶ谷小学校の好きなところをお話ししたいと思います。僕の好きな行事は運動会です。理由は、赤白に分かれ、各軍が力を合わせて戦うことが魅力的だからです。5年生ではソーラン節を踊りました。はっぴも鉢巻きも手づくりしました。着物には自分でデザインして背中に好きな漢字1文字を入れます。特に鉢巻きづくりは難しく大変だったけれども、おうちの人や学校応援団の人たちのおかげで完成することができたのでよかったのです。はだしで踊るのは足が痛かったですが、はっぴづくりを手伝っていただいたお礼に全力で踊ろうと頑張りました。運動会の練習は夏休み明けの9月から始めます。曲に合ったドレス、衣装、小道具を先生たちが考えてくれます。ほかの学年の演技を見るのも楽しみの1つです。僕たち6年生は小学校最後の運動会で組み立て体操をします。練習を始めたばかりでまだ難しいのですが、できるようになったり、みんなまで心を1つにして楽しい演技を行います。

○児童4 僕が柏ヶ谷小学校の行事で好きなのは6年生を送る会です。6年生を送る会で

は、自分たちも5年間、そのときの6年生を自分たちがクラスで考えた遊びで送り出してきました。去年の自分たちのクラスでは、いかだゲームや犯人探しゲームなどをしてとても盛り上がりました。そして、毎年卒業する6年生にプレゼントを渡してきました。去年プレゼントした写真入れは運営委員の僕たちが考え、6年生の写真を入れて渡すことができました。1から5年生までは6年生とめったに触れ合うことかないので、とても新鮮でした。そして、今年はずいに自分たちが送られる番になりました。送られるのは初めてなので楽しみです。しかし、送られるということは卒業という意味なので悲しい気持ちもあります。複雑な気持ちです。6年生を送る会の日をどんな気持ちで迎えるのか、下級生とどんな触れ合いができるのか楽しみです。

○児童1 私が柏ヶ谷小学校でよいなと思っていることは、この学校の音楽会です。そう思っている理由は、各学年の息を合わせた元気あふれる歌や美しい合奏などを聞くと楽しくなるからです。音楽会は合唱と合奏だけではなく、劇をやる学年もあります。去年の音楽会の低学年による劇は語りの声と歌声がよく聞こえ、見ていてとても楽しい、よい劇でした。さらに自分たちでつくった衣装を着ていて、とてもかわいかったです。合唱や合奏のときでも衣装をかえたりする学年がありました。ほかにも演奏をするときに何かを見せたり、場所を移動したりする学年もあり、このような工夫があるからわくわくしながら見るができているのだと思います。音楽会は、先ほど見てもらった動画のように先生たちの演奏もあります。先生方の心を一つにした一体感のある、よい演奏を聞くと、身体が勝手に動いてしまい楽しい気持ちになります。踊ったりしている先生がおもしろいです。だから私は音楽会が好きです。今年は小学校最後の音楽会なので、柏ヶ谷小学校の児童全員を感動させたいと思っています。

○児童3 私が柏ヶ谷小学校で好きなところは校庭です。春になると校庭の桜がとてもきれいです。散った花びらが風に舞う様子もとてもきれいです。校庭での体育では、たくさんある鉄棒で逆上がりを、その他タイヤ飛び、のぼり棒、ジャングルジムを使います。休み時間になると多くの児童が校庭で遊びます。鬼ごっこ、ドッジボール、ドロケイをして遊びます。校庭で遊ぶことがたのしく、雨が降ると残念です。この広い校庭が大好きです。これで、柏ヶ谷小学校の紹介を終わります。最後までお聞きいただきどうもありがとうございました。

(拍手)

○教育部長 ありがとうございました。児童会の皆さまが、ご自分たちの学校を思う気持

ちが本当によくわかりました。それでは、児童の皆さんの発表を踏まえ、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

○海野委員 大変上手な発表で感心しました。6年生を送る会のお話がありました。クラスに6年生を招いて給食を一緒に食べるという説明がありましたが、どういうきっかけで始まったのでしょうか。

○児童2 6年生と給食を食べて交流することで親睦が深まります。

○海野委員 ありがとうございます。6年生と食事をしながらお話ができるということはよいですね。次は見送られる側ですから、楽しみです。

○酒井委員 すばらしい発表をありがとうございました。魅力的な音楽会で、わたしも行ってみたいと思いました。楽しみにしています。

○平井委員 柏ヶ谷小学校に勤務していたことがありました。発表を聞いて自分が過ごした日々を思い出し、懐かしいなと感じているところです。「柏小まつり」は児童も教職員もPTAも一緒に活動しました。周りの方々が児童の皆さんが楽しめるように力を込めて作り上げる行事です。楽しかったです。思い出がたくさんあります。その中でも音楽会はすばらしく、心の底に、体の中にしみこむ音楽会でした。それが今でも続いていて、創立56年です。私がいたころよりもはるかにすばらしいものになっていると感じました。それは、皆さんの手で運営されていることが大きいと思います。卒業までの残りの日々をよいものにしていただいて、すばらしい卒業式を迎え、すばらしい中学生になってもらいたいと思います。

○松樹委員 昨年、音楽会に参加させていただきました。感動しました。またぜひ参加したいです。発表を聞いて素敵な学校だと思いました。給食についてお伺いします、皆さん、一番好きなメニューと給食に出てほしいメニューを教えてください。

○児童2 好きなメニューはカレーライスです。出てほしいメニューはステーキです。

○児童1 私もカレーライスが好きです。出てほしいメニューは、やっぱり寿司が食べたいです。

○児童4 同じくカレーライスが好きです、出てほしいメニューは麺類です。

○児童3 好きなメニューは揚げパンです。出てほしいメニューは、同じく麺類で、ラーメンです。

○松樹委員 ありがとうございます。

○市長 すばらしい発表をありがとうございます。皆さんは学校は楽しいですか。行くの

がいやになったことはありませんでしたか。

○児童たち たまにはありました。

○市長 たまにはあるでしょう。でも学校が楽しいんだ。ありがとうございます。

○教育長 発表がすばらしかったです。ありがとうございます。

○教育部長 柏ヶ谷小学校児童の皆さん、本日はご参加いただき誠にありがとうございました。ご来場の皆様、改めて児童の皆さんに大きな拍手をお願いいたします。それでは、事務連絡をさせていただきます。次回の海老名市総合教育会議は、令和2年2月22日土曜日午前10時から、ビナレッジでの開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。以上をもちまして、第3回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたり誠にありがとうございました。